



先日5年生の連絡帳に保護者から、本紙 No.45「図工嫌い…」の感想が寄せられました。一昨日は2年生から、お母さんが校長先生の通信を大事にとっている、持って帰るとすぐに読んでいるとの話をもらいました。うれしい限りです。おかげさまで No.50 となりました。

話を聞く ①

校長室で仕事をしていると、いわゆる^{ほうれんそう}報連相(報告・連絡・相談)に教職員がやってきます。私は、多くの場合、パソコンを使って仕事をしているのですが、教職員が来たときには、やっている仕事をやめて、話を聞きます。当たり前のことですが、締め切り間際や締め切りを過ぎて文書、急を要する報告書などを慌てて作成しているときもあるのです。



…尻に火がつかないと仕事を始めないという、この習慣は直さなければいけないと重々承知しているのですが。

とにかく、仕事をやめて話を聞きます。簡単な連絡や報告もありますが、中には、複雑な相談や深刻な相談もあります。教職員が何の話をするのか分かりませんので、まず、聞く態勢をとることを心掛けています。

…脱線します。根っからのアマノジャクですので、教職員の言葉づかいにひねくれて答えることが多々あります。ウィットが通じない場面もありますので、相手を見て言葉を選びますが…。パワハラに当たるものがあるのでしょうか？

教職員「お忙しいところをすみません。」 私「忙しくないよ。校長なんて一番ヒマなんだから…」

教職員「郵便局のほうへ行ってきます。」 私「郵便局へ行くならいいけど、郵便局のほうへ行くじゃ許可できんよ。」

教職員「ちょっと郵便局へ行ってきます。」 私「ちょっとね。30秒くらい？」

教職員「ちょっと郵便局へ行ってきます。」 私「地球の長い歴史からすると1年も10年もちょっとの時間だよ。」

教職員「ちょっと郵便局へ行ってきます。」 私「慌てずにゆっくり行ってこうし。」 ←たまにひねくれていないときです。

ある調査によると「一緒にいて楽しくないのはどんな人か」という質問に対して、男女を問わずに一番多かったのは「いつも慌ただしくて、人の話を聞かない人」という回答だったそうです。

…また脱線します。「忙しい」が口癖のような人がいます。実は「忙しい、忙しい」と言う人が、そんなに忙しくないんじゃないのと思える場合、ただ単に仕事の段取りが悪いだけなんじゃないのと思える場合もよくある話です。

…さらに脱線します。家電量販店に妻と洗濯機を買いに行きました。A店に行き、やっと店員をつかまえ、妻が機能やサービス、我が家の設置場所の特殊事情などの質問をしました。何やら忙しいらしく、聞いてもらえていない感じがしました。B店に行くと、そこの店員は、質問に丁寧に答えてくれたり、こちらの事情も汲んでくれたりという対応でした。A店よりもB店の方がやや値段が高かったのですが、こっちの店で買おうと珍々←妻と意見が一致しました。

本当に忙しい人なのに、まったく忙しさを感じさせない人もいます。分刻みのスケジュールでも、目の前にいる人としてしっかり向き合って話を聞いてくれます。たとえ5分であろうとも、「話を聞いてくれた」という強い印象が残ります。

私は、保護者や地域の方からの話(ときにはお怒りの場合も)をいただくことがあります。しかし、そのあとに予定がある場合も多いものです。…「こういうときに限って」ということは、よくありますよね。

この場合に私は、始めに「申し訳ありませんが、〇時〇分から□□で会議がありますので、△時△分までお話を伺うことができます」と伝えるようにしています。そして、その時間になりましたら「始めにお伝えした時間ですので」と話を終わらせていただきます。これならば、相手も納得していただけます。こういった前置きなしに話を都合で終わりにしますと、相手は話を途中で打ち切られた、あまり聞いてもらえなかったという印象になってしまう場合もあるのです。



さて、子どもが親に話をしてきたとき、どう対応しているでしょうか。「〇〇だからあとにして」と言ったことがある方は多いことと思います。なぜ今、言い出すの、とタイミングがまずいときもあるものです。

…忙しくてゆっくり聞いている暇はないという保護者もいることは承知で書いています。

少し経って時間が空いたので、「さっきの話って？」と聞いて、話をする子どもはまだいいのですが、タイミングを逃したことにより、「もういいや」となってしまう子どもとの関係は問題ありです。「あっ、そう」と話を聞こうとしない親は大きな問題ありです。「さっきの話」を忘れてしまう親はさらに大きな問題ありです。

前述の調査には「デートのときに、してほしいことは？」という質問もありました。一番多かった回答は「ご飯を食べているときに、スマホでメールやメッセージをチェックすること」でした。この回答にあるように、スマホを見ながら子どもの話を聞く…、これはどう思いますか。「あとにして」と言いたくなるのは子どもの方かもしれません。以前は子どもがよくいろいろなことを話してくれたのに…と感じる場合、子どもが親に話をしたいのに聞いてくれなかったことの積み重ねによって、「どうせ聞いてくれないし…」とあきらめている場合があるのかもしれませんが。…子どもは成長とともに、無口になっていく傾向はあります。

子どもの表情がいつもと違うことに気づいたときどうしますか。「何かあった？」と尋ねて、話してくれる子どもはいいのですが、「別に…」で終わってしまう子どもには、どうしたらいいでしょう。

なかなか話してくれない子には、「今日はおいしいお菓子をもらったんだ」と声をかけ、一緒に食べることで話が始まるかもしれません。



ときどき引用させてもらっています。早稲田大学名誉教授の加藤諦三さんのコラムです。相変わらず辛口です。

※一部を省略し、わかりやすくするために言葉を加除修正してあります。

「お母さんはちっとも私と遊んでくれない」と子どもが言った。すると母親は「そんなことないでしょ、お母さんは忙しくても毎日一緒に遊んであげているでしょ」と答えた。そして「ウチの子どもは、遊んであげているのに、遊んでくれないと文句を言うんですよ、どこがおかしいですか」と相談にきた。

これは「子どもの話を言葉のとおり受け取る母親」である。子どもが言っているのは、遊んでいる時間ではない。言おうとしているのは、一緒にいるときも、母親の心に自分がいないということを言っているのである。母親は子どもといるときも、顔が他を向いていると不満を述べているのである。「私と遊んでくれない」という言葉で、母親は自分といることが楽しくないように思えると子どもは言っているのである。

<中略>

子どもと一緒に遊ぶ「べき」だから、一緒に遊ぶというのではない、一緒に遊びたい気持ちを母親にもってほしいと子どもは訴えているのである。ところで「顔を子どもに向ける」を言葉どおりに受け取らないでほしい。それは子どもと遊んでいるときの、母親の目の輝きを言っているのである。顔さえ子どもの方を向いていれば目は虚ろでもいいというのではない。子どもと一緒に遊んでいるときの母親の目の輝きを感じている。子どもと視線があわないうまま一緒に遊んでいても子どもは「お母さんはちっとも私と遊んでくれない」と思うだろう。

<中略>

「耳を傾ける」とは、子どもの言う言葉の裏に隠されている意味を考えるとということである。「どうして、お兄ちゃんのほうがおかずが多いの？」と言った子どもは、おかずの量の違いを言っているのではない。そのおかずの量に表れているような気がする母親の愛情の量の違いを子どもは言っているのである。

